



医学部長インタビュー Vol.1

満田憲昭医学部長に、本学部の特徴や
育成したい医師・看護師像について伺いました。

第1回目は、「愛媛大学医学部の概要」について
紹介します。
是非、ご覧ください。



第14代 医学部長・医学系研究科長
満田 憲昭

Q1:愛媛県の医療における愛媛大学医学部の役割を教えてください

満田:

本学部は1973年に発足し、これまでに3,800名の医師と1,300名の看護師を輩出しています。数年前に、輩出した医師数が愛媛県内の医師数を上回りました。その半数程度が現在でも愛媛県内に残り、地元の医療を支えていますので、県内の医師の半数程度は本学出身者ということになります。愛媛県の医療を支える意味でも、本学の責任は重大であると言えます。

地域貢献も重要な使命だと考えています。松山市、西予市、四国中央市、久万高原町、内子町、八幡浜市、愛南町等、愛媛県内各地に本学のサテライトセンターを設置し、そこで地域のニーズに即した医療を行うことにより、県内の地域医療の質的向上に貢献しています。また、県内各地の医療機関と連携して、将来の地域医療に貢献できる人材の育成およびキャリア形成支援を積極的に推進しています。





医学部本館



Q2:医学部の教育目標を教えてください

満田:

医学科では、多様な資質や志向性に合わせた医療人の育成を目指しています。特に、研究マインドを持った医師の育成に力を入れています。医師には探究心が必要であるというのが、わが校のコンセンサスです。患者さんに接し、検査値や画像を見てデータを分析し診断に辿り着く「患者から学ぶ」能力に加え、得られた情報から新しい情報を導き「患者に還元する」医療を、学生にも身につけてもらいたいと考えています。

また、看護学科では、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」ができる看護職者の育成を目指し、人々の多様なニーズに応じた看護実践ができる豊かな人間性と高度な知識・技術を習得できるカリキュラムを編成しています。特に、実習やフィールドワークにおいて地域で暮らす人々と関わるプログラムを豊富に提供しています。そして、体験から学べるよう支援することで、生涯にわたって主体的に学び続けることのできる看護職になってもらいたいと考えています。



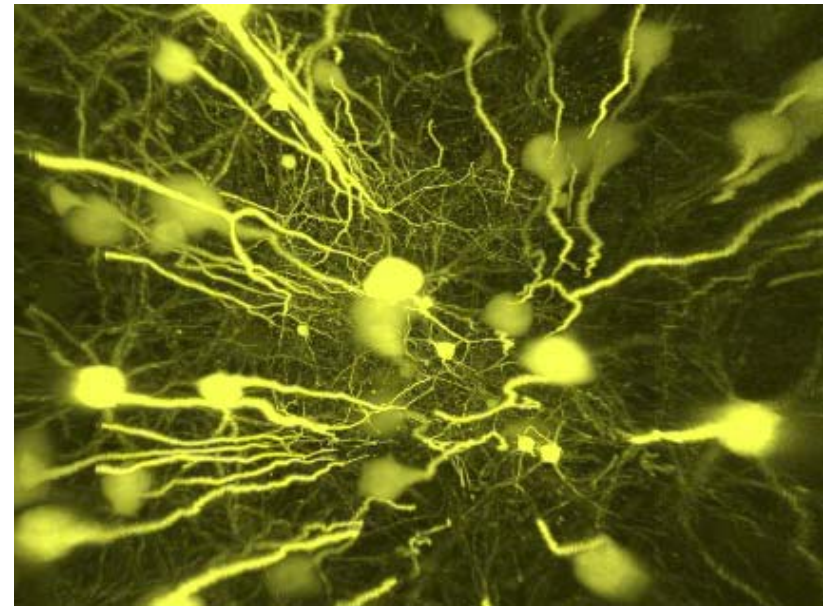
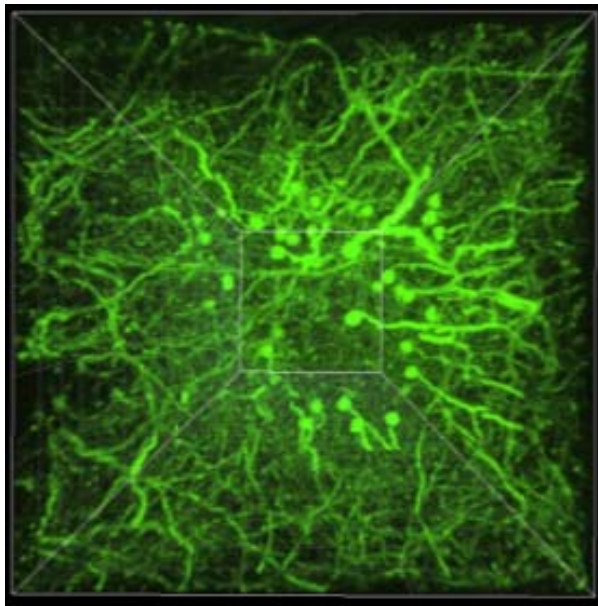


学生による論文が国際ジャーナルに掲載

Q3:医学研究に関する取組を教えてください

満田:

医学部では、プロテオサイエンスセンターにおける無細胞タンパク質工学の技術を活用した再生医療やマラリアワクチン開発等の研究実績を生かし、感染症、がん、自己免疫疾患、生活習慣病などに関する先端的で特徴ある研究を推進しています。また、附属病院内に設置した先端医療創生センターにおいて、基礎技術と先端医療との橋渡し研究にも力を入れています。



生体蛍光イメージングによる大脳新皮質錐体細胞3D-2



次回は、「医学部の教育カリキュラムの特徴や育成したい医師像」について紹介します。